宮崎大学清花 Athena サポート室
News Letter
2010 年 1 月発行 No.5
国立大学法人宮崎大学　清花 Athena サポート室
http://www.miyazaki-u.ac.jp/~kiyohana/
E-mail: info-athena@med.miyazaki-u.ac.jp
振興調整費

CONTENTS

Athena のうごき……1
特集「宮崎大学 私たちの子育て白書」……2
宮大で Jump! ～宮崎大学で活躍する女性研究者たち～……3
ミニトピックス……3
M の横顔　宮崎大学子育て応援プロジェクト……3
イベントなどのお知らせ……4
逆風を順風に～事業担当教員からのメッセージ～……4
編集後記＋α……4

Athena のうごき

事業合同シンポジウムに参加しました

11 月 25 日・26 日、日本大学において「女性研究者支援システム改革プログラム事業合同シンポジウム」が開催されました。このシンポジウムには、現在、全国で文部科学省科学技術振興調整費により女性研究者支援事業等に取り組む 40 機関が参加し、ポスターセッションやスライドを用いた報告等を通じ、様々な情報や意見の交換が活発に行われました。

本学からも 3 名が参加し、取り組み報告では伊達紫清花 Athena サポート室長が、本学における進捗状況を発表しました。また、ポスターセッション会場では、他機関における最新状況の情報を得るとともに、本学のポスターに対しても他機関職員からの様々な質問等を受けるなど、今後の取り組みに大いに役立つ機会となりました。

院生のためのサイエンスキャリアセミナーを開催しました

12 月 3 日、宮崎大学において「院生のためのサイエンスキャリアセミナー」を開催し、学内の院生・教職員約 80 名が参加しました。

初めに小学生・高校生 2 組による研究発表が行われ、参加者からは研究内容のレベルの高さやしっかりとしたプレゼンテーションに感心する意見や感想が数多く寄せられました。

後半では、慶應義塾大学医学部の塩見美喜子准教授をお招きし、ご講演いただきました。潮見准教授からは、ご自身が取り組む RNA（リボ核酸）の研究動向を分かりやすく説明いただくとともに、研究者としての資質にも言及されました。「まずはサイエンスに興味があることが大事。実験が上手なだけでなく、文章力やコミュニケーション力などあらゆる能力をバランスよく育んで欲しい」と未来の研究者を目指す参加者にエールを送ってくださいました。

企業交流セミナーを開催しました

11 月 9 日、宮崎大学において「企業交流セミナー ～企業の子育て・介護支援の現状～」を開催しました。

1980 年代から子育てや介護支援の取り組みを行っている株式会社富士ゼロックス人事部の夏井孝子さんをお迎えして、社内での取り組みや現状などについてご講演いただきました。富士ゼロックスでは、ニーズや状況に応じた改善を加えながら、女性、男性を問わず、働き続けやすい職場環境づくりを行っているとのこと。現在は出産経験者の 94.3％が職場復帰しているというデータも示してくださいました。また、取り組みを進めていくに当たっては、改革に取り組むという強い意志が必要だということについてもお話いただきました。

講演する富士ゼロックス夏井氏

教員を交えた討論会の様子

その後、伊達室長から本学の現状説明と、子育て中の教員 2 名を交えた討論会を行い、今後の本学での子育て支援のあり方について多くの意見が出されました。

「イラスト展」を開催しました

11 月 21 日・22 日に開催された宮崎大学“清花祭”の医学展に「Athena café」として参加しました。

今回はサポート室の紹介コーナーと、「ママ・パパありがとう！－お仕事おつかれさま－」と題したイラスト展を開催しました。宮崎大学で働く教職員や大学院生のお子さんから 35 点の作品を寄せていただき、“ありがとう”の気持ちをイラストやメッセージで伝えてもらおうと企画したものです。心温まる作品をたくさんの方々に見ていただき、大変好評でした。

また、本学の教職員・学生を始め、学外からも様々な世代の方にご来場いただき、ご意見やご感想を伺う貴重な機会となりました。

特集 ～宮崎大学 私たちの子育て白書～

子育て及び女性研究者支援に関するアンケートから

清花 Athena サポート室では、10 月に宮崎大学に在籍する教職員（非常勤職員を含む）2,398 人と大学院生 654 人の計 3,052 人を対象に、子育ての現状や女性研究者支援に関するアンケート調査を実施し、教職員の 48.7%（1,168 人）、大学院生の 49.8%（326 人）から回答を頂きました。この特集では、今回のアンケート調査の結果を基に、宮崎大学で仕事や研究に取り組む人たちの現状の一部をご紹介します！

■どんな人が回答したの？

今回のアンケート調査における回答者（1,494 名）の内訳は次の通りです。

図 1　性別

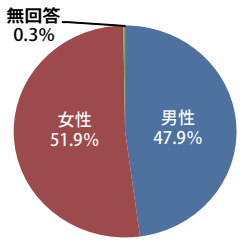


図 2　年齢

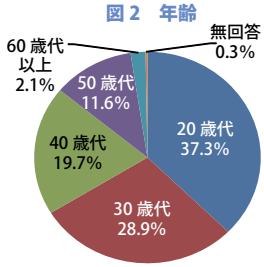


図 3　配偶者の有無

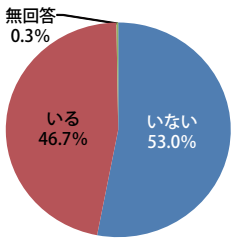
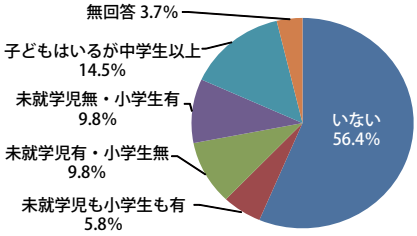


図 4　子どもの有無



■教職員に聞きました！子育てで大変だったことは？

子どもを持つ教職員のうち、現在小学生以下の子どもを持つ人 356 人に子育ての実態や経験についてたずねてみました。子どもの保育について何か困ったことは？という問いに対しては、「病気の際の保育」（50.3%）が圧倒的に高い割合を占めました。以下、「小学校に上がってからの放課後保育」（24.7%）や「日曜日・祝日等の保育」（16.6%）が多くなっています【図 5】。

子育てに取り組む人に対する職場の理解はどうでしょうか？育児に対する職場の理解を感じるかという問いに対しては「大いに感じる」（30.6%）及び「まあ感じる」（41.0%）という回答が多く、全体の約 7 割の人が理解を感じているようです【図 6】。また性別に見ると、男性よりも女性のほうが理解を感じると回答している人が多く、男性が子育てに関わることへの理解が十分に浸透していないという傾向が感じられます。どのようなときに理解を感じたか／感じなかったかについては、「子どもの病気や参観日で休む時、快く応じてもらえる」という人がいる一方で、「ときに冷たい視線を感じつらいことがある」という人も。子育てに対する理解度は、同じ学内でもその職場などによって異なるようです。

図 5 子育て中に困ったこと（教職員）

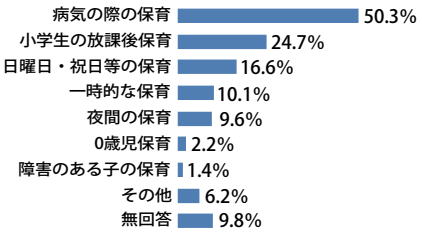
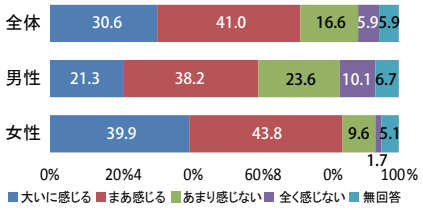


図 6 子育てに対する職場の理解（教職員・性別）



■宮大の子育て支援に満足してる？

大学が行う子育て支援ついてはどう感じているのでしょうか？回答した教職員では約半数が「十分でない」（52.3%）と回答しており、「十分である」（26.5%）と回答した人の割合を大きく上回っています【図 7】。では、具体的にどういった子育て支援が求められているのか？今後取り組むべき子育て支援について複数回答で尋ねたところ、多くの人が「職場の理解が得られる意識づくり」（教職員 52.0%、大学院生 57.4%）を求めています【図 8】。現在子育て中の人の大半が育児に対する職場の理解を多少なりとも感じているにもかかわらず、意識づくりに期待を寄せる人が多いという点から、職場における理解の重要性を感じます。

図 7 宮大の子育て支援は？（教職員）

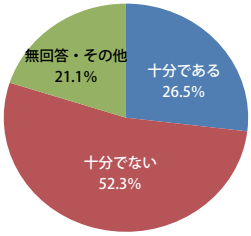
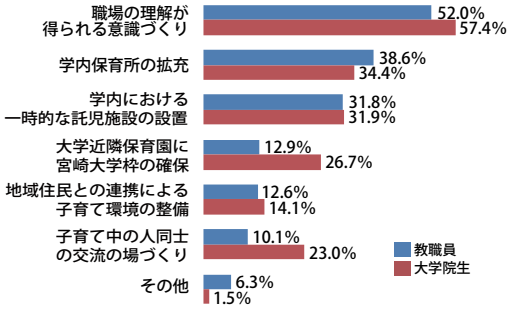


図 8　今後希望する子育て支援



■これからに向けて

アンケートの最後に設けた自由意見の欄では、「男性の子育てについての考え方や関わり方も把握すべき」「子育てしながら働きやすい職場環境のために私たち個人でも努力していくべき」など、今後の本学における子育て支援の充実に向けて参考となるさまざまな意見が寄せられました。

年齢や性別はもちろん、職種や勤務形態もまさに多種多様な人たちが在籍する宮崎大学。その中で小さな子どもを育てている人は決して多数派ではありませんが、子どもが小さいうちは病気をしたり、学校行事があったり…何かと時間と手間がかかるもの。多種多様な人で構成される大学だからこそ、多種多様な生き方や家族環境、ワークライフバランスを尊重しあえるよう、さらに大学全体の意識づくりに取り組んでいく必要があるといえそうです。

宮大で Jump!

～宮崎大学で活躍する女性研究者たち～

宮崎大学で研究に取り組んでいる女性は現在 277 名（教員 86 名、院生 191 名）。でも、実際にどんな女性がどんな研究で活躍しているかは意外と知られていないのではないでしょうか。そこで、このコーナーでは宮崎大学で活躍する女性研究者を紹介します。

工学部
物質環境科学科資源環境科学講座
研究員　黒木 久仁子 さん

【略歴】
宮崎市出身。鹿児島大学理学部卒。
1997 年　霧島酒造㈱（研究開発部門）
2007 年　西の都酒造㈱（研究室長）
2009 年　現職

－研究について教えてください

大学卒業後、酒造会社で長年研究開発に携わってきましたが、製造管理や営業支援などの仕事を行ってきました。現在は、大学でバイオマス資源を利用した、バイオ燃料及びバイオ有価物を創出する研究を行っています。

－進路決定のきっかけは？

高校時代から、数学や理科などの教科興味があり、理系を選考していました。大学では、酒類に関係するような研究はしたことがありませんでしたが、化学系だったのでそれが役立つ仕事がしたいと考え、酒造会社に入社を決めました。今までは応用研究と製品管理ばかりで、基礎研究はあまりしたことがありませんが、今は思ったことをどんどんやっています！！

－仕事と生活のバランスについて教えてください

月～金曜日までしっかり研究をして、週末はジムでピラティスを頑張っています。内側の筋肉をゆっくり動かすのですが、これが結構効きます！あとは、甥っ子とパワフルに遊んで楽しく過ごしています。

－研究者を目指す女性へメッセージをお願いします

まずは、何でもやってみるという姿勢が大切だと思います。最初は与えられた仕事でも、いろいろな経験が研究に活かせるアイデアを生むものだと思います。「私は研究がやりたい」だけではなく、是非いろんなことに目を向けてトライしてください。

ミニトピックス

女性研究者による交流会が行われました

11 月 4 日、「宮崎大学女性研究者による交流会」が開催されました。全学的な交流会の開催は初めてということもあり、「宮大で Jump!」で紹介した黒木久仁子さんを始め、30 名の女性研究者が参加しました。自己紹介では、事前に用意したスライドなども利用しながら各自の研究や教育を説明。日頃の趣味などの披露もあり、温かい拍手や関心が寄せられていました。終了時には、第 2 回開催を望む声も挙がるなど、大変盛り上がりました。

清花 Athena サポート室でも、本学における研究活動の更なる深まりや連携強化を目指し、研究者同士によるネットワークの構築をさらに支援していきたいと考えています。

の横顔－宮崎大学子育て応援プロジェクト

このコーナーでは宮崎大学で配布中の「子育てバッジ・シール」「子育て応援バッジ・シール」を利用している人にスポットを当てます

企画総務部総務課長
上村 茂樹さん

今から 25 年前、産後休暇は 6 週間しかなく、長男を生後 1 月半で保育園に預けました。その後、制度の変更はありましたが、2 番目は生後 2 か月で 3 番目は生後 3 月で保育園にお世話になりました。子育ては妻に任せ、空いている時に育児・家事の真似事をしていたというのが実感です。また、子どもが多感な頃に単身赴任をしていましたので、妻の苦労は並大抵ではなかったと思います。妻にはほんとに感謝しています。

当時も共働きはそう珍しくもなく、共働きに理解がある職場でしたので、急な休暇等も取りやすい雰囲気がありました。今思えばそのような職場であったからこそ 25 年間も共働きをしながら子育てができたのでしょう。

私の職場にも、子育て真最中の職員がいますので、彼らが仕事と子育てを両立しやすい職場環境を整えることが「子育て応援団」の責務であり、心がけていくべき事と思っています。

医学部附属病院副看護部長
久保 敦子さん

看護職員との面接で、「育児をしながら看護の仕事をするメリットは？」との問いに、「時間管理が出来るようになったこと、子は親の鏡として自分を振り返ることができること」の回答に出会いました。「仕事と育児の両立は大変！」という風潮の中、このポジティブ思考に、同じ母親兼看護師として感動しました。

WLB(ワークライフバランス) がクローズアップされ、看護部内でも、「かえるプロジェクト」と称して、安全な医療環境、納得のいく質の高い看護、職員の健康や安全を守る職場へ「かえる」ことを目指し、取り組みを実施しています。WLB には管理者による支援は必須ですが、看護職自身が育児をチャンスとして、思考を “ チェンジ ” し “ 育自 ” することは大きな一歩と考えています。

イベントなどのお知らせ

社会保険労務士による相談を行っています

サポート室では、学内の教職員や学生を対象に、育児や介護、キャリアに関わる相談に応じています。12月からは、さらに専門的な情報の提供を行うことを目的に、社会保険労務士による専門相談をスタートさせています。

この専門相談によって、学内の教職員・学生からの育児・介護休業制度や社会保険の手続きなどについて、これまで以上に詳しい情報をご提供できるようになりました。

また、相談実施日のランチタイムには、仕事と家庭の両立において役立つ情報をさまざまなテーマで提供するミニセミナーも行っています。1月は出産・育児を取り上げましたが、2月は介護をテーマに開催する予定です。

●これからの相談＆ミニセミナーの予定
- 木花キャンパス…2/25、3/25
- 清武キャンパス…2/18、3/11

※相談時間はいずれも 11:00 ～ 14:00

高校生を対象とした体験学習を行います

昨年の体験学習の様子

昨年3月にも開催し好評だった高校生対象の体験学習、今年はさらにパワーアップして開催することが決定しました。この体験学習は女性研究者支援事業における次世代育成の一環として開催するもので、進路選択を控えた高校生の皆さんに、科学や研究のおもしろさを実感してもらえるよう工夫を凝らしています。講座数が9講座から12講座に増加、メニューも多彩になりました！参加には事前申し込みが必要となりますので、清花 Athena サポート室までお問い合わせください。

「高校生のためのスペシャルチャレンジ in 宮崎大学」

日時：3月9日（火）、10日（水）9～16時
場所：宮崎大学
対象：高校生　参加費：無料

～逆風を順風に～

事業担当教員からのメッセージ

農学部獣医学科　教授　村上（むらかみ）　昇（のぼる）

平成20年に、この「女性研究者支援モデル育成事業」が採択された経緯は知らないが、事業担当委員長（伊達 紫教授）による「逆風を順風に」と言うキャッチフレーズも高い評価の一因になったのでは、と思っている。確かにいろいろな職場で重要ポスト（いわゆる管理職）に就いている女性数は圧倒的に少なく、その意味でも、あるいは女性の職場での待遇や環境の意味でも、日本全体に逆風（差別）が吹いていることは否めない。中には、「この女性研究者支援事業こそ差別だ」と思う男性もいるかも知れないが、この事業は、女性研究者個人個人に心地よい風を送る（支援する）と言う意味合いよりも、職場、社会あるいは日本全体の男女差別（逆風）を是正し、順風に変えるための送風機みたいなものと考えている。一部の企業では、このような送風機をすでに何台も設置し、社内に順風を吹かせている。平成21年11月の企業交流セミナーで紹介された富士ゼロックスの「企業の子育て・介護支援の現状」などはその良い例だ。

この事業も伊達委員長をはじめ多くの方の努力で着実に逆風を弱めている。平成21年9月に行われた宮崎発の「九州アイランド女性研究者支援シンポジウム」において、九州各大学の送風機を連結して九州全体に大きな順風を吹かせようとの提案は、すごいアイデアだったと感心している。もしかすると宮崎からの順風が日本全体へ届く日も遠くないかも知れない。

編集後記＋α

11月に開催された大学祭では、普段なかなかお会いする機会が少ない学外の方とお話する機会を数多く得ました。中でも、宮崎大学への進学を希望する高校生とその保護者の方からは、「大学内で女性研究者支援や育児等に関する支援あることに驚きと安心の気持ちです」との声をいただきました。確かに育児や介護といった問題は、高校生には身近な問題ではないかもしれませんが、進路選択やその先のライフプランを考えるときに、この取り組みを思い出していただければ幸いです。

8月には高校生の体験学習も予定していますので、また多くの方に会えることを楽しみにしています！！

国立大学法人宮崎大学　清花 Athena サポート室
木花キャンパス　〒889-1692 宮崎県宮崎市学園木花台西1-1　Tel&FAX：0985-58-7508　内線：(92)7508
清武キャンパス　〒889-1692 宮崎県宮崎郡清武町大字木原5200　Tel&FAX：0985-85-1252　内線：(95)2327
http://www.miyazaki-u.ac.jp/~kiyohana/　E-mail: info-athena@med.miyazaki-u.ac.jp